



校長 深谷 浩一

「韓国は安全な友好国です！」
～メディアに惑わされないで！～

韓国に関する最近の報道によれば、日本が輸出管理上の規制を強め、韓国を「ホワイト国」から外したことに對して、韓国の文在寅（ムン・ジェイン）大統領はその對抗措置として軍事情報包括保護協定（GSOMIA）の破棄を日本側に通告したとのこと。そして、そもそも日本が韓国を「ホワイト国」から外したのは、韓国による「慰安婦問題蒸し返し」や「徴用工問題」「レーダー照射事件」などに対する日本側の報復であるかのようによも報道されています。これも情報によっても、私たち多くは、こうすれば、日韓関係が、現在、取り返しのつかないくらい悪化しているような印象を抱いてしまいます。

二日暴りと
とながりな
こく人なく
のののの
る深国な
いい韓見好
てらのを友
れく人をば
さる多本並
道な日本と
報に日
現在まし、
現戦視改
が、か。敵
が韓うを
が日よ本
がにし本
が当に日
が本のは
ま、な又
し、はと
ま、はと
ま、はと

本校では、毎年、希望者から折々、韓国語の勉強を希望する方が増えています。今年度も「韓国研修（デジン）女子高校」の生徒を20名受け入れ、計画していた文化交流の機会をもちました。その結果、本校と韓国語を学ぶ生徒の交流が盛んになり、今後も継続して文化交流の機会をもちたいと考えています。

ところろが、今、日本と韓国とが不安定な政治状況にあるため、参加生徒とその保護者の中
 には、韓国旅行に対して少なからず、不安を抱いている方々がいるようです。最近、日本人
 の韓国旅行者が韓国人に路上で暴行を受けるといった事件も不安を助長しているようです。



デジン女子高の生徒を迎えた本校生

力的に襲うのでしょうか。もしそうなら、中央
ますが、私はまったくそうは思っていない。
つだと考えています。

「韓国研修」を計画しています。平成26年に全
(デジ)女子高校生徒たちと交流を持つつ機
能、中国語と韓国語を思いますが、そ
唯一、指名されたいと希望する者を得て、実
施する。来年1月に20名参加を予定しています。



交流を楽しむ日韓の高校生＝小美玉市張星

交流会ではプレゼン
トを交換したり、茶華
道部員がたてたお茶を
堪能したりした。

両校の交流は、昨年
の総文祭プレ大会で韓
国の高校生が来日した
際、中央高校を訪れた
ことから始まった。こ
とし1月には同校生徒
が韓国を訪問した。今
回、デジン女子校の生
徒は総合開会式で踊り
を披露する。

(高畠和弘)

日、小美玉市張星の県立中央高校（森田浩一校長）を訪れ、再会を喜び合うとともに、同校のもてなしを受けながら交流を深めた。

訪れたのはソウル市のデジン女子校の生徒15人と引率教師ら5

人。浴衣姿などで出迎えた中央高代表、佐藤明日香さん（3年）が韓国語で「良い友達に巡り会える時間にした」といなど歓迎するといふ韓国側代表のイ・ユジンさんは「私も浴衣を着てみたい。良い交流

茶道でおもてなし

中央高 日韓交流深める

日、小美玉市張星の県立中央高校（森田浩一校長）を訪れ、再会を喜び合うとともに、同校のもてなしを受けながら交流を深めた。

訪れたのはソウル市のデジン女子校の生徒15人と引率教諭ら5人。浴衣姿などで出迎えた中央高代表、佐藤明日香さん（3年）が韓国語で「良い友達に巡り会える時間にしたい」などと歓迎するとい

韓国側代表のイ・ユジンさんは「私も浴衣を着てみたい。良い交流にしていきたい」と応

「青少年交流は続けていくべきだ！」

～「日韓高校生交流事業」を主催する文部科学大臣の会見から～

そのような状況について、日本政府はどのように考えているのでしょうか。
今年度、本校生の中に、文部科学省主催「日韓高校生交流（派遣）事業」に参加する生徒がいます。この事業は、日本と韓国で共同開催された2002年ワールドカップサッカー大会成功を契機とした「日韓共同未来プロジェクト」の一環として始まったもので、今年は、全国の韓国語を学ぶことのできる高校の中から、わずか55名が選ばれて、10月に韓国の高等学校等を訪問する予定になっています。本校の参加生徒はこの55名の中の一人です。
この生徒及び保護者も昨今の韓国事情に不安を抱えている可能性があることから、事業主体の文部科学省に問い合わせたところ、「日韓関係の悪化を受けて、文部科学大臣が記者会見しているのです、そちらを見て判断してほしい。」と記者会見の動画をご紹介いただきました。以下はその会見の内容です。

（記者）

日韓関係の悪化を受けて各地で交流事業が中止されたり延期されたりという事態が起きていると思うんですけども、この点についてのご見解、また対応があればお願いいたします。

（大臣）

おりしも、今回、今日実施された閣議においてもですね、輸出管理についての決定がですね、されたところであります。そういったことも含めてではありますけれども、自治体が主催する日韓の間での様々な事業、文部科学省で申し上げれば青少年の交流事業のいくつかがですね、韓国側から日本側への派遣事業の中止や延期の連絡があるということも承知をしております。交流事業の実施に関しては、実施主体の判断に委ねられているところでありますけれども、文部科学省といたしましては、日韓両政府の関係が困難な状況にあっても、両国関係の将来のために相互理解の基盤となる青少年交流、自治体からの交流、こういったことはですね、草の根レベルでの取り組みということで続けていくべきではないかというように考えております。一方で、先ほど申し上げたような政府の決定等については、必要な決定を必要なタイミングで行うということではないかというように考えます。（ゴシック体は引用者による。）

「交流事業の実施は実施主体（主催者）の判断ではあるけれども、国としては、両国関係の将来のために相互理解の基盤となる青少年交流は続けていくべきだ」というのが柴山文部科学大臣の考えです。私も大臣と同じ考えです。この会見の様子は、文部科学省のホームページ（「会見・報道・お知らせ」→「大臣記者会見等」→「柴山昌彦文部科学大臣記者会見録（令和元年8月2日）」）に、動画でもアップロードされていますので、そちらもご覧いただければと思います。

どうか、皆さん。いずれの研修に参加する生徒であっても、メディアに踊らされず、また両国間の「政治的な駆け引き」報道にも惑わされず、青少年交流は大切だという文部科学大臣のことばを信じ、本当の韓国を自分の眼で見て、韓国の真の姿を家族や友人に語ってほしいというのが、校長である私の願いなのです。

長谷（ジャンゴック）高校訪問記録 ～研究紀要『Metier（メティエ）』第8号より～

来年1月訪問する韓国の高校は今年度と同じ長谷（ジャンゴック）高校です。この長谷高校がどんな高校であるか、また、どんな研修を受けてきたかなどについて、その一端を引率した赤井先生の報告書（本校の研究紀要『メティエ』）から引用してみます。

「第3日目：梨泰院から35km離れた長谷高等学校へ。

本校が初めて訪れる長谷（ジャンゴック）高等学校は京畿道（キョンギド）始興市（シフンシ）にあり、2000年1月開校し現在生徒総人数は802名（男子424名・女子378名）、教職員65名

（男性15名・女性51名）規模の学校で養護学校も併設されている。バスを降り生徒達が校門前まで

向かうと門柱上方に「歓迎・中央高校」の横断幕が掲げられ、校舎玄関では長谷高校の生徒8名が笑顔で迎えてくれたことに本校生徒は感激し緊張が少し和らいだようである。

歓迎セレモニーでは本校代表生徒が韓国語でスピーチを行い、その後別室で各グループに分かれパキキョン先生の指導の下、韓国の扇子や印鑑作りを行いながら日本語・韓国語・英語を使い会話をしているうちに生徒達も表情が和らぎ、最後にはメールカウンターの交換をするほど交流を深めていた。近くにある参鶏湯（サムゲタン）専門店にて長谷高校の職員、生徒と共に昼食をご馳走になり再び懇親を深め、別れを惜しみながらも再会を約束する姿に海外研修の意義を実感した生徒も多くいたはずである。その後ソウル市内に戻り景福宮（キョンボクン）、国立民族博物館を訪れ3日目の行程を終了した。」





学校訪問では韓国の学生と交流して、お互いの国の言葉を使いながら楽しく会話することができました。本当に良い経験になったと思います。昌徳宮や景福宮など世界遺産の観光地にも行き、韓国の歴史について学ぶことができました。昌徳宮ではマチョグりを着られたことは貴重な経験になりました。今回の研修を通してたくさんの経験と韓国の歴史を学べたことを、今後の生活に活かしていきたいです。(2年女子)

私は研修に参加する前日まで緊張して、翌日不安を大きく抱えたまま飛行機に乗った。その不安は、忘れ物をしていないかななどの小さな悩みなどではなく、中央高校の代表として自分がしっかり学んでこられるかという悩みであった。だが、訪韓して私なりにたくさんの方の文化・風習の違いを学ぶことができ、家族や友人にも自信をもって体験した内容を説明できるほど充実した経験だった。私は日韓だけでなく世界平和に貢献できるよう努めていきたい。(1年女子)

最初は不安でキャンセルしようかなとも考えました。でも、行ってみるとその不安が全て吹き飛ばすほど楽しく充実した研修で、最終日が近づく頃には日本に戻りたくない気持ちで心がいっぱいになりました。韓国で強く印象に残ったのは「統一展望台と自由の橋」です。この場所は戦争の爪痕が強く残っていました。家族が離散し、大切な人が殺されてしまうことなどガイドさんの話を聞いて戦争の悲惨さを改めて知ることができました。二度とこのような悲劇を起こしてはならないと本当に思いました。反日感情や言葉の不安はありましたが、



出会った人達がとても親切で優しくして下さったことで不安は無くなり、再び韓国を訪れたい気持ちでいっぱいです。(1年女子)

◇ ◇ ◇
現在、この長谷高校には、韓国の現状や日本人に対する感情等について、問い合わせを行っています。また、韓国語の授業を担当している李先生の協力も得て、韓国に関する情報収集を行っています。現時点においては、韓国旅行を中止する理由は

見当たらないと考えています。とはいえ、今後、またさらに状況が変化し、旅行を実施することができなくなるようなことが起こらないという保証もありませんので、引き続き状況を見守っていきたいと考えております。

以上が、来年1月に予定されている本校主催の韓国研修旅行に対する現時点での本校の対応方針です。保護者の皆様におかれましては、今後とも、学校の指導方針にご理解いただけますことを切にお願い申し上げます。

参加生徒感想についても、先の『メティエ』の中から引用して紹介しておきます。

「私は、韓国を訪れるのは2回目ですが、韓国人の優しさに改めて感動しました。1番の目的である高校訪問では、長谷高校の皆さんが校舎内に入った時に日本語のメッセージや日本のキャラクターを描いたボードを持ち、私たちを歓迎して下さいました。体験授業ではカタコトでも日本語で話してくれてとても嬉しく思いました。高校生の方々に感謝したいと思います。ソウル市内を案内してくれた大学生は、私達が行きたいところを全て地図で調べ詳しく説明してくださいました。今回の研修で、未来の日韓の友好関係にほんの少し貢献できたのではないかと思います。(2年女子)

